



TITLE:

星々の臭

AUTHOR(S):

稲垣, 武五

---

CITATION:

稲垣, 武五. 星々の臭. 天界 1935, 16(175): 23-23

ISSUE DATE:

1935-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167128>

RIGHT:

反射しないかほりに非常によく通過させるので、同様によく紫外線を通過させる水晶に銀鍍銀をして、紫外線のみを通過さすフィルタに使用できる。これは銀の缺點を逆に利用したもので面白いと思ひます。

アルミニウムの鍍銀の方法は、先づ鏡を密閉できる容器に入れ、その中の空気をぬいてから、初めに入れてあつたアルミニウムのフィラメントに電氣を通して赤熱し、アルミニウムを蒸發させて鏡面に附着させるのである。

これは眞空管を作る時に應用されてゐます。眞空管に用ふるのはマグネシウムで、その用途は眞空管内を完全な眞空にするためであります。

話を前にもどして、アルミニウムを小口径に應用したらと思ふ人があると思ひますが、眼視用としては銀が最も能率がよいのですから、わざわざ苦勞してアルミニウムにかへる理由ありません。耐久力は少し増加するかもしれませんが。

以上にのべたやうに寫眞用には能率がよいのですから、日本の中口径以上の寫眞用の反射望遠鏡にアルミニウムを鍍銀したら必ず能率が増すことと思ひます。

---

## “星々の臭”

東京 稻垣武五

赤の星は

どん・ふあんの皮膚に見る麻疹の斑點

白の星を

盆景師とネオン・サイン屋に見せたい

黄の星に

交叉點と兵隊屋敷の感觸がある

青の星で

艶歌師は水力發電所を偶像化す

星々の臭には

歌舞伎的時間と神々の體溫表とがある